

事例 1 Oral Communication I (第1学年)

タスク活動を通じての表現能力の向上

1 指導目標

飲食店で注文するときの表現を定着させ、未習表現の習得に興味をもたせる。また、クラスメイトの会話や発表を聞き、コミュニケーションへの興味・関心を養う。

2 評価規準(タスク活動)

関心・意欲・態度(A)	表現の能力(B)	理解の能力(C)	知識・理解(D)
間違ふことを恐れず自分の注文を伝えている。	目的に応じて店で適切に注文することができる。	聞かれたことに対して店員として適切に応じることができる。	店において注文するときの表現や語句を知っている。

3 指導過程(指導計画)

時限	指導内容	評価の観点
1	飲食店における基本的な表現の提示・確認	D
2	テキストのリスニング問題・スピーキング活動(ペアワーク)	B,C
3	スピーキング活動(ペアワーク) 課題解決型のオーラル活動(英語での注文に挑戦)	A,C

テキストを使用して「I'd like to have ~.」や「That's all.」等の表現を導入し、リスニング問題やペアワーク等のスピーキング活動で定着を図った。その後、第3時限目に「飲食店での課題を解決しながら注文を完了させる」というタスク活動を行った。以下に示すのが生徒との実際の対話である。

設定場面1：あなたは、400円を持ってファーストフード店に買い物に来ました。ハンバーガーとポテトとコーラを買って帰ってください。

目 標：必要な物を注文することができ、ハプニングに対応することができる。

Student N:	Hi!
Teacher:	Hi! May I help you?
Student N:	Yes. I'd like to have a hamburger and French fries and a coke, and your smile!
Teacher:	Smile is 0 yen. What size of French fries and a coke do you want?
Student N:	Large French fries and large coke, please.
Teacher:	All right. So your paying is 500 yen.
Student N:	Really?? Oh, no! I have only 400 yen.
Teacher:	Can't you pay?
Student N:	「まけて」って何て言うんだっけ?
Student S:	'Discount.'だよ。
Student N:	Discount!
Teacher:	No!
Student N: Can I work here now?

Teacher: Are you sure?
Student N: Yes. I can do anything; washing dishes, cleaning and so on.
Teacher: So, brush up the whole floor!
Student N: Yes, sir!
(Student N is brushing up the floor.)
Teacher: Finished?
Student N: Yes. OK?
Teacher: How beautiful! Here is your order.
Student N: Thank you very much! Bye-bye!

設定場面 2 : あなたは、おばあちゃんのお遣いでファーストフード店に来ました。おばあちゃんは入れ歯なので固いものが食べられません。おばあちゃんに優しいメニューを注文してください。

目 標 : 必要な物を注文することができ、細かい要求もすることができる。

Student O: Hello.
Teacher: Hello. May I help you?
Student O: My grandmother is 80 years old. She is very old.
Teacher: So what?
Student O: My grandmother has 入れ歯. She can't 噛む.
Teacher: And?
Student S: だから、「柔らかいのください」って言えばいいんだよ。
Student O: Soft, please!
Teacher: OK. Fish burger is juicy and soft. How about this?
Student S: OK. One fish burger, please.
Teacher: For here or to go?
Student O: To go! How much?
Teacher: 100 yen. Here you are.
Student O: Thanks. Bye!
(After the demonstration)
Teacher: 「柔らかいのください」って'Soft, please.'以外にも何かいい表現ないかな?
Student H: I'd like to have soft foods.
Teacher: Anything else?
Student T: 'Something soft' とかは?
Teacher: Good job.

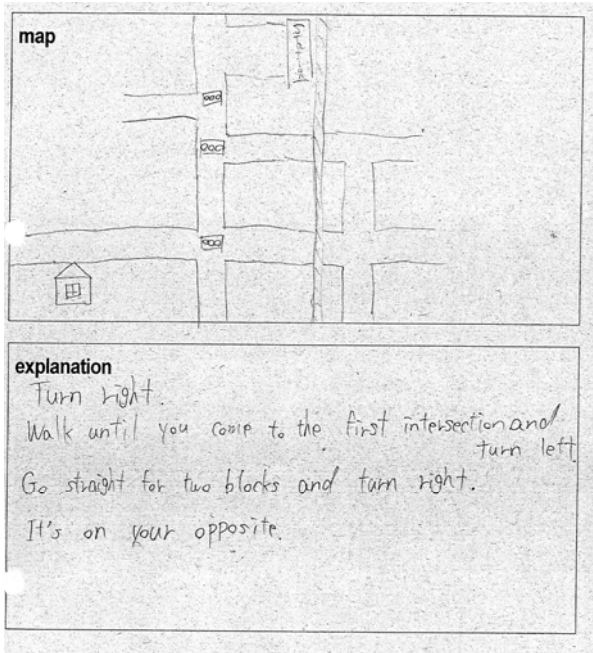
4 他のレッスンでのタスク活動

道案内の表現を学ぶレッスン

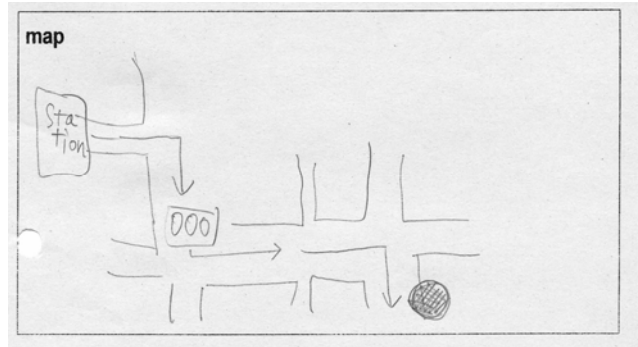
設定場面 1 : 友人があなたの自宅へ遊びに来たいと言っています。あなたは、電話で駅から家までの道を分かりやすく説明しなければなりません。(相手役はあなたの説明を「聞いた」だけで、駅からの道順を地図を描きなさい。)

目 標 : 自分の家の場所を正しく伝えることができ、相手役は友人の説明を聞き、正しく地図に描くことができる。

(生徒 A が作った英文と地図)



(生徒 B が生徒 A の説明を聞いて描いた地図)



設定場面 2 : あなたは、修学旅行で沖縄に来ました。グループ行動の最中に班員が迷子になってしまいました。地図と携帯電話で、あなたが今いる地点まで班員を誘導しなさい。

目標 : 英語だけで友人を目的地まで誘導することができる。また、友人の英語を聞いて、地図を辿りながら誘導された地点まで辿り着くことができる。

(生徒全員に配布した地図)

The Map of Kokusai-Dori

第一勧銀	ホテル	ダイエー	中村屋	沖縄そば屋	沖映通り	アクターズスクール	那覇タワー							
バス停	写真屋	アメリカ屋	アディダス ナイキ	交番	本屋	ちんすこー 本舗	土産屋	スタバ	三越	みやげ物屋 マクドナルド				
国 際 通 り														
土産屋	マクドナルド 駐車場	ドトール 土産屋	映画館	消防署通り	眼鏡屋	宝石屋	ローソン タコス屋	駐車場	浮島通り	オーバ	琉球銀行	平和通り	モスバーガー	ひめゆり通り
ベスト電器	アイ ス屋	国際プラザ ホテル			喫茶店					公設市場			南西観光ホテル	
					ツタヤ	ゲームセンター								

多少事実と異なりますが、真実は来年確かめて下さい。

(生徒 T と生徒 W の対話)

Student T: Hello. This is T.
Student W: Hello. This is W. I'm lost. Please help me!
Student T: OK. Where are you?
Student W: I'm in the Okinawa-soba restaurant.
Student T: I see. Go straight Okiei Street to Kokusai Street.

Student K: Turn right ... No! Turn left and walk two blocks.
Student I: Turn left and turn left.
Student W: What?
Student T: Sorry. Can you see a movie theater?
Student W: Yes.
Student K: Go straight and turn right.
Student W: Daiei?
Student I: No! Get out of Daiei!
Student T: Go straight two blocks. 国際通りを横切って。横切るって何？
Student W: 'Across.' だと思う。
Student T: Across Kokusai Street and turn left. You can see it on your left.
Student W: Kokusai Plaza Hotel?
Student K: Near!
Student W: Ice cream shop?
Student T: OK.

(Hug each other.)

ドラマ作成を通じての表現能力の向上

1 指導目標

「面白い」内容のドラマをライティングから発展させて作ることで、既習の表現を定着させる。友人のドラマを見て表現や技術を学習させる。また、人前で英語を話す自信をつけさせる。

2 評価規準

関心・意欲・態度(A)	表現の能力(B)	理解の能力(C)	知識・理解(D)
(1) 積極的に活動に取り組んでいる。 (2) 自ら学んだ表現などを使ってスクリプト作成に取り組んでいる。 (3) 友人が作成したドラマに関心をもっている。	(1) ドラマを通じて「面白さ」を適切に伝えることができる。 (2) 場面や目的に応じて語句や表現を選択し、適切に話すことができる。	(1) 聞いた内容について大切な部分を把握することができる。	(1) 場面や状況、目的に応じた表現を知っている。 (2) ジェスチャーなどの非言語的なコミュニケーション手段の役割や使い方を理解している。

3 指導過程(指導計画)

時限	活動内容	評価の観点
1 時限目	ドラマ作成の説明・ビデオ視聴・グループ分け	A1
2 ~ 6 時限目	グループ別のスクリプト作成	A2、B1、B2
7 時限目	グループ別のスクリプト作成・録画・発表順番決め	D1、D2
8 時限目	上映発表会・生徒審査	A3、C1
9 時限目	審査結果発表・出てきた phrase の解説と復習	A1、D1

10時限目	出てきた phrase の復習	A1、D1
-------	-----------------	-------

(1) ドラマ作成の説明(1時限目)

【ワークシート1】を使い、目的・評価の方法・手順などについて説明した。なお、人前で英語を話す自信を失わせないために、発表は予めビデオで撮影したものを使用することにした。「面白さ」の参考映像として言語音声なしのビデオを見せた。

【ワークシート1】

英語でドラマを作ろう！！

目的

- ・英語でドラマを作ることで、これまで学習してきた表現を定着させたり、「こんなこと言ってみたいな」という表現を学習する。
- ・自分自身が英語を話すことで、人前で英語を話す自信をつける。
- ・英語で「面白さ」を伝える学習をする。
- ・級友が撮影したドラマを見て、友人の表現や技術を学ぶ。

手順

- ・ドラマについての説明・参考ドラマ視聴・グループ分け
- ・シナリオ作成(完成したら先生に見せること)スクリプト提出
- ・完成したグループから撮影開始
- ・ビデオ上映、発表会(お互いに審査する)
- ・審査結果発表、みんなが使った表現の復習
授業終了時にはその時間の作業状況を報告

グループ及び撮影について

- ・グループの人数：4 5名
(全ての人が出演し、英語で話す)
- ・グループの名前：自由に決めること
- ・発表時間：各グループ3分以内
- ・撮影時間：授業時間中 or 放課後
- ・撮影場所：学校の敷地内
- ・場面設定：自由とする
- ・小道具等：自由に工夫すること
- ・作品のタイトル：自由に決めること(英語で)

発表について

- ・発表順は直前にくじ引きで決定します

審査について

- ・グループごとに次の項目で審査します
- ・はっきりと大きな声で話せているかどうか
- ・内容が伝わりやすかったかどうか
- ・面白かったかどうか

個人賞(Best Actors Awards)も投票により決定します

- ・「大きな声ではっきり話していた」で賞
- ・「頑張って英語で話していた」で賞
- ・「演技がうまかった」で賞
- !!!受賞グループ及び個人に豪華賞品謹呈予定!!!

注意事項

- ・分かりやすい表現を使うこと
(和英辞典を使うのはいいことだが、難しい単語をそのまま使用しないこと)
- ・全員で協力して取り組むこと
- ・日程を確認して、計画的に取り組むこと

日程(予定)

9月30日(金)	説明
10月4日(火)	スクリプト作成
10月5日(水)	スクリプト作成
	スクリプト作成・撮影
11日(火)	スクリプト作成・撮影
12日(水)	スクリプト作成・撮影
13日(木)	スクリプト作成・撮影
25日(火)	発表・審査

Allan先生が助けてくれる日があります

(2) シナリオ作成と撮影(2~7時限目)

シナリオは和英辞書からそのまま引用してきたような難解な表現は避け、誰にでも分かる表現でスクリプトを作成するように指示を出した。生徒がどのように表現したらよいのか困っている場合は、ALTも含めた教師が支援した。各グループで録画までに2度以上スクリプトを提出させた。

生徒の目的意識を明確にし、やる気を持続させるために、教員出演の英語ドラマを見せた。撮影には授業時間や放課後を利用した。

【添削前のグループ B のスクリプト】

英語でドラマ team Echigo		役	セリフ
K 氏			Do it sleep, and isn't there something good robot though you have been heard to be making the robot?
N 博士			And how about a wife? (How about a wife?) And how will about this robot if it does?
K 氏			Besides, isn't there good one?
N 博士			Then, how will of this 'human type' about the robot?
			Is done for lordom and the arista.. bringing...
K 氏			It has understood, It will decide it for it. 「買いますか?」
K 氏			Are you, and what can (the robot) you do?
ロボット			Yes (it) moves like your orders.
K 氏			cut I の方がいいから
K 氏			Does not that alone be by you and exist without doing work to ask when it is necessary to put it?
			How what is when saying.. it make a table..?
K 氏			Such a robot was sold and applied with?
N 博士			Ah?.. the missing of the leave will. That robot has given that setting from the origin ? on the island.. happy.. leave alone

役	セリフ
	星新一の小説が? 今のままのセリフを直訳していくのではなくて、日本語のセリフをもっと簡単に書き直してみよう。
①	K氏とN博士の会話はロボット環境についてでね。「買う」と「買う」で難語を減らしてみよう!
②	ロボットとK氏の対面で「ロボットの片々」が表せるセリフが「演説が」いいですね。
③	クレーンをつけていることを分かりやすく表現してみよう。

【添削後のグループ B のスクリプト】

(K 氏の背中から研究所の中を写す)	N 博士	Because it really looks like you.
K 氏	Sleeping? Are there any good robots? Are you making a robots?	(うなだれて帰る K 氏の背中を写す)
N 博士	What type of human robots? I want to sell a robot.	
(ロボットのアップシーン)	ロボット	Yes, I can do many things for you.
	K 氏	Well... O.K. It really looks like a human.
(ロボットと K 氏)	K 氏	今何時?
	ロボット	10時30分
	K 氏	What time is it?
	ロボット	Ten thirty.
	K 氏	What is the date today?
	ロボット	August 22nd.
(ロボットが暴れているシーン)		
(K 氏が N 博士に会いに来る)	K 氏	Why did you sell such a crazy robot?

robots
 あるいは robots がいいですね。

このオチは面白いかもしれないけど、面白いですね。

(3) ビデオ上映による発表会(8時限目)

【ワークシート2】を使い、全員が全てのグループに対して「大きな声ではっきりと話していたか」「内容が伝わりやすかったか」「面白かったか」を5点満点で審査した。また、個々の生徒の頑張りを促すために「大きな声ではっきり話していた」「頑張って英語で話していた」「演技がうまかった」の3つの個人賞も併せて審査した。

【ワークシート2】

英語でドラマ 評価シート

グループ賞審査

各グループの次の項目について5点から1点にをつけて審査してください

グループ名【 】

はっきりと大きな声で話している	5	4	3	2	1
内容が伝わりやすい	5	4	3	2	1
面白かった	5	4	3	2	1

グループ名【 】

はっきりと大きな声で話している	5	4	3	2	1
内容が伝わりやすい	5	4	3	2	1
面白かった	5	4	3	2	1

グループ名【 】

はっきりと大きな声で話している	5	4	3	2	1
内容が伝わりやすい	5	4	3	2	1
面白かった	5	4	3	2	1

グループ名【 】

はっきりと大きな声で話している	5	4	3	2	1
内容が伝わりやすい	5	4	3	2	1
面白かった	5	4	3	2	1

グループ名【 】

はっきりと大きな声で話している	5	4	3	2	1
内容が伝わりやすい	5	4	3	2	1
面白かった	5	4	3	2	1

グループ名【 】

はっきりと大きな声で話している	5	4	3	2	1
内容が伝わりやすい	5	4	3	2	1
面白かった	5	4	3	2	1

グループ名【 】

はっきりと大きな声で話している	5	4	3	2	1
内容が伝わりやすい	5	4	3	2	1
面白かった	5	4	3	2	1

個人賞審査

次の各賞に最も適していると思われるクラスメイトの名前を1人だけ記入してください

「大きな声ではっきり話していた」で賞	
「頑張って英語で話していた」で賞	
「演技がうまかった」で賞	

(4) 審査結果発表及びドラマで使用された表現の復習(9・10時限目)

ドラマの中に出てきたフレーズをプリントにまとめて復習した。

Let's make drama!! ~ Review Sheet ~

In a restaurant Put ① to ④ in English, and ⑤ to ⑦ in Japanese.

- ① いらっしゃいませ。()
- ② 何名様ですか? ()
- ③ 他にご注文は? ()
- ④ どうぞ。()
- ⑤ コーラとバナナで2000円を請求して、「まけてくれ」と言われたTウェイターが"How about 300 yen?"と言ったセリフ ()
- ⑥ 300円と言われて払おうとしていたOとAにSが"It's on me."と言ったセリフ ()
- ⑦ ⑥のセリフを言ったSにAが"Are you serious?"と言ったセリフ ()

Urashima-Tarou Put ① and ② in English, and ③ and ④ in Japanese.

- ① 名前は? ()
- ② 何歳ですか? ()
- ③ I 亀をいじめているKに浦島太郎のBが"No, domestic violence!"と言ったセリフ。()
- ④ F 乙姫が玉手箱を渡しながら言った"Here is the Tamatebako." ()

Robot Put ① to ③ in English, and ④ to ⑥ in Japanese.

- ① 何時ですか? ()
- ② 誕生日はいつ? ()
- ③ 何が起きたんだ? ()
- ④ ロボットを買いに来たGにR博士が"What type of human robots?"と言ったセリフ ()
- ⑤ crazyなロボットを売りつけたR博士にGが"Why did you sell such a crazy robot?"と言ったセリフ ()
- ⑥ ⑤の質問に対してR博士が"The robot really looks like you."と言ったセリフ ()

Syoten Put ① and ② in English, and ③ to ⑥ in Japanese.

- ① 司会のD: です。()
- ② 今日はこれおめでとうございます。()
- ③ 司会のDが番組の始めに言った"Let's start by introducing ourselves."というセリフ ()
- ④ お題に対してHが答えた"Three years ago, on the chimney, Draemon appeared."というセリフ ()

- ⑤ お題に対してCが答えた"Yesterday in the park, Father and Mother fought."というセリフ ()
- ⑥ お題に対してFが答えた"Five years ago, in the sky high, Grandfather fought against the devil."というセリフ ()

Touch Put ① in English, and ② to ④ in Japanese.

- ① お前なんかやっつけてやる! ()
- ② Eのボールを打てなかったOが"Shit!"と言ったセリフ ()
- ③ 応援しているYが"He did it!"と言ったセリフ ()
- ④ キャッチャーのNがEに"Cheer up!"と言ったセリフ ()

The police Put ① to ④ in English, and ⑤ to ⑦ in Japanese.

- ① どうすればいいんだ? ()
- ② 君なら空も飛べるはずだよ。()
- ③ 気楽にね。()
- ④ ベストを尽くせよ。()
- ⑤ 犯行を断定しているH捜査官にZ容疑者が言った"Why do you say so?"と言ったセリフ ()
- ⑥ ⑤に大してH捜査官が言った"This is the evidence. Your fingerprint."と言ったセリフ ()
- ⑦ いきなり犯行を認めたZ容疑者にH捜査官が言った"Pardon?"というセリフ ()

Winter Mafia Put ① to ④ in English, and ⑤ to ⑦ in Japanese.





- ① おめでとう! ()
- ② 泣かないで。()
- ③ 奴らおかしいよ。()
- ④ 俺もそう思うよ。()
- ⑤ キスをした後のBの"Your lips taste grapes."というセリフ ()
- ⑥ 冗談でキスに料金を請求した後で、「いくら?」と聞かれたBが"Priceless."と言ったセリフ ()
- ⑦ BがHGの真似をして"My waist spins very fast."と言ったセリフ ()
- ⑧ Yと去っていったAがBに"I'm dating with him."と言ったセリフ ()
- ⑨ 泣き崩れるBをなくさめて、Yが"I think you're a special baseball player."と言ったセリフ ()

Ⅲ 定期テストにおける評価について

授業で、扱った「タスク活動」や作成した「ドラマ」をもとに定期テスト問題を作成した。予め似たような問題を授業時に提示してから出題した。以下がその一部である。

出題例 1

今あなたはハンバーガー店にいます。次のものが欲しいときには何と伝えればいいでしょうか?

<p>(1)</p>  <p>cheeseburger vanilla shake</p>	<p>(2)</p>  <p>fish burger apple pie</p>
<p>(3)</p>  <p>hot dog coffee</p>	<p>(4)</p>  <p>cheeseburger orange juice</p>

生徒 H の解答

(1) I'll have a cheeseburger and a small french fry and a small vanilla shake. 4/5

(2) I'll have a two fish burbers and an apple pie. 4/5
2個を1に使う

(3) I'll have a hotdog extra mustard and a coffee. 4/5
たまたまいい単語ですね。

(4) I'll have a cheeseburger no onion and orange juice. 4/5
no以外は? かんぽうは? an.

出題例 2

あなたは笑点に出演しています。 "When? Where? Who? What?" という質問に面白く答えなければなりません。何と答えますか?

- When?
- Where?
- Who?
- What?

生徒 S の解答

'When?' => two yers ago
 'Where?' => my room
 'Who?' => dog and cat
 'What?' => listen to music ← 2 years ago なの? 過去形に!!

Good! 7/8

生徒 C の解答

'When?' => two ← 日付? 2 days ago かな?
 'Where?' => Tsutaya
 'Who?' => Doraemon
 'What?' => catch ball ← キャッチボールをする 'play catch'

5/8
予想の面白い

考察・まとめ

(1) 生徒のアンケート結果から

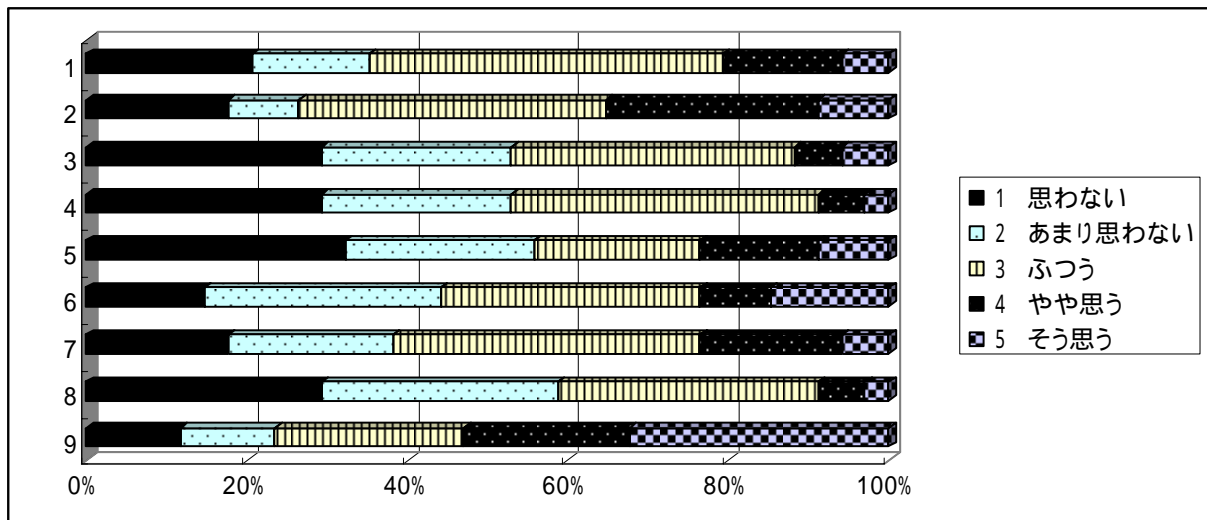
1学期及びドラマ作成終了後に英語に対する意識を把握するために、同じ質問項目でアンケートを行った。また、ドラマ作成に関しては、活動後に記述式で感想を書かせた。以下がその結果である。

英語に対する意識調査

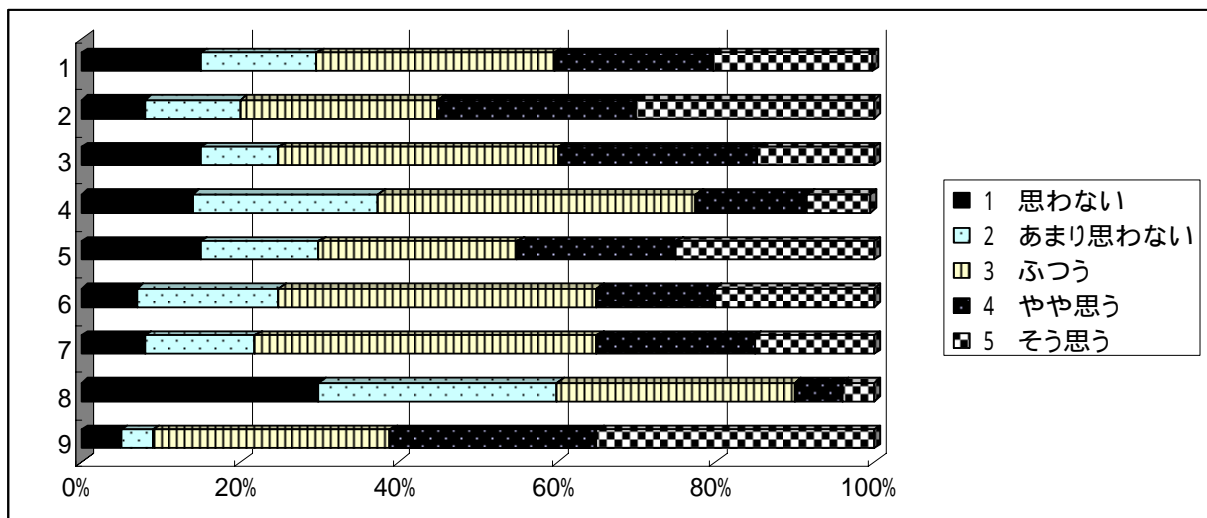
(質問項目)

1. 英語は好きですか？
2. 英語の授業は楽しいですか？
3. 英語で会話することは好きですか？
4. 英語で書くことは好きですか？
5. 教科書以外の内容も学んでみたいですか？
6. 英語は必要ですか？
7. 英語を聞くことは好きですか？
8. 英語を読むことは好きですか？
9. 英語ができるようになりたいですか？

(1学期に行ったアンケート結果)



(ドラマ作成後に行ったアンケート)



ドラマ作成に関する感想

- ・ 思ったより、みんな英語がしゃべれていてすごかった。
- ・ 単語等を調べるのが大変だった。
- ・ 最初は恥ずかしかったけど、無事に上映まで辿り着けてよかった。たまにはこういう授業もいいなと思った。楽しくできて何よりだった。
- ・ またドラマをやってみたい。
- ・ ほんの少しだけ英語ができるようになった。
- ・ 他の班も色々な単語を駆使して頑張っていたのですごいと思いました。
- ・ 他の人に任せてばかりだったので微妙です。

1学期の初めの段階では「英語ができるようになりたい」という気持ちが強いものの、英語の4技能については苦手意識が非常に高かった。特に「会話すること」や「書くこと」に対する苦手意識が目立った。さらに教科書以外の教材を使うことに消極的であった。そこで「英語の授業が楽しい」と答える生徒の数を増やしていけば、必ず他の項目においても意識の向上が見られるのではないかと考え、正確さよりもまずは楽しさを重要視した授業展開をすることにした。型通りの発話のみを要求するのではなく、日本語混じりでも構わないから積極的な発話をさせ、言いたかったことが何とか伝えられたときの喜びを味わってもらおうとタスク活動やドラマ活動を導入した。

ドラマ作成後の2学期末に行ったアンケートでは、「2. 英語の授業が楽しいですか？」の問いに対して、「そう思う」「ややそう思う」と答えた生徒の割合が上昇した。「聞くこと」「話すこと」を重視して授業を進めてきたので、「3. 英語で会話をすることが好きですか？」への回答から、生徒の苦手意識は多少解消されたことが分かる。タスク活動やドラマ作成などで自由な発話を促してきたことは、生徒の意識を変えていくうえで役に立ったと考えられる。定期テスト等の「英語を書く」ことについても、好きであると答えた生徒の割合は低かったが、「話すこと」ができれば「書くこと」ができるようになると考えはじめ、苦手だと答えた生徒の割合も下がった。

ただ、「読むこと」に対する意識はほぼ変化がなかった。これは、ほとんど「読む」ことを含んだ活動を、OCIの授業において導入していないためと思われる。「会話をすること」「英語で書くこと」などの主に発信することの苦手意識が下がったので、次年度の英語の「英語を読む」活動につなげていきたい。また、ほとんどの項目に対して2割程度の生徒が苦手意識を感じており、この生徒達に対するフォローアップや活躍の場を与えていく工夫が今後必要である。

ドラマ作成の点では、クラスメイトの作ったドラマを見て、「自分のクラスメイトは意外とすごいと感じた」という意見が多かった。友人の話す英語を聞いて、理解し、そして感動した結果だと思う。そこで、今後は、生徒同士がより発信したりや受信したりするタスク活動を増やしてみようと考えている。

(2) 定期テストの結果から

入学当初よりも口頭による自己発信が増えてきたのに伴い、テスト等で主に書くことによる自己表現もできるようになってきた。アンケートの「英語で書くことは好きですか？」という質問項目で「得意」「やや得意」と答えた生徒の割合が上がっていることから読み取れる。定期テストの問題では1学期当初に比べ、何も書けない、何も書こうとしないという生徒は減ってきた。また、自分の意思を何とか相手に伝えられる程度の英文は書けるようになってきた。ただ、授業時の活動では発話の文法上の間違いや、書く活動中の単語のミススペリングについての助言はするものの、評価の際には重視していないので、まだ正確な英文で自己表現をしていくことはできない。これからは、OCIでの活動を通して、生徒の意欲を失わずに、発信する英文の正確さについても指導の工夫が必要である。

(3) 今後の課題

タスク活動について

生徒の実態に応じたタスクの設定

各レッスンにタスク活動を課したが、どの程度の難易度なら生徒が活発に活動できるかの見極めが困難な場合が多かった。欲張って多様なタスクを複合させた形のは、ほとんど生徒を混乱させる結果となった。特に道案内のレッスンでは、ペアになり自宅までの道順を口頭で説明し、もう一方の生徒がそれを聞いて地図におこすという複雑なタスクを設定した。しかし、聞き手に「説明を聞き取る」と「地図に描きおこす」という2つのタスクを課してしまったので、生徒はどうすればいいのか戸惑ってしまった。そこで、次の授業では来年の修学旅行で訪れる沖縄の国際通りの地図を見ながら、友人を目的地まで誘導するというタスクに変えた。シンプルで生徒の興味を引くタスクを設定することが課題の1つである。そして、今後は限られた発話を誘導するようなタスクではなく、より多様な発話が可能なものを取り入れていきたい。

グループでの競い合い

また、1年間を通じて各生徒が最低5回は級友の前でタスクに挑戦できるような活動を設定した。しかし、タスク毎にグループから1人ずつ挑戦し、グループ毎に競い合うという形式をとれば、もっとグループ内でお互いにフォローし合える活動になったと思う。

ドラマ作成について

最初のうちは日本語で

日本語でスクリプトを作成してから英語にしていって作業だと、日本語に縛られてしまい自由な表現ができなくなるのではないかと懸念し、活動当初はなるべく日本語に頼らないようにさせていた。ところが、知っているフレーズを組み合わせただけで、ドラマとして内容が薄いものや、全く作業が進まないグループがあった。そこで、3時限目の作業からはまず日本語で言いたいことを書かせ、それを英語にしていってという作業に変更した。その後は比較的スムーズに進行した。最初から英語で考えさせる作業は、生徒の自由な発想を妨げしまっていたのだと反省した。また、日本語から英語にしていって作業の過程で、最初は生徒の自由な発想を尊重しようと自由にセリフを作らせていたので、シンプルすぎるものや複雑すぎるもの、書いた生徒本人すら理解が困難なものが大半だった。

既習の言語材料

そこで、既習の表現の中から3つを教師側で選び、必ずその表現を入れてスクリプトを作成するように指示した。ある程度、使用する表現に条件を与えることで、スムーズに活動が進んだ。

書き直しと気づき

数回の校正を重ねていくうちに、書いた生徒自身にとって徐々に分かりやすいスクリプトになっていった。校正の過程では、単に英文を訂正していくよりも、ヒントや提案を与えていった方が生徒の「やる気」を引き出すことができることに気付いた。教師がすべて訂正するのではなく、生徒に訂正させる糸口をアドバイスすることの重要性を実感した。文の正確さを向上させるために、今後、生徒自らの「気づき」を大切に、ヒントやコメントの書き方について研究していきたい。